企業組織と情報についての一考察

3B－7

藤井　義信　藤本　洋　下地　寛
富士通株式会社　富士通関西通信ｼｽﾃﾑ株式会社

1．まえがき

近年，製品開発期間の短縮化，顧客満足度の向上，急激な技術進歩など企業環境も大きく変化し，これに的確に対応することが強く求められている。本稿では，組織と情報との関連性に着目し，再構築性に富んだ企業組織に適した企業内情報通信システムについて検討したので報告する。

2．企業組織における要件

これまでの企業組織では，通常，一旦決まった階層的組織をベースに各種経営資源がある程度固定的に展開されており，状況変化に伴ったタイムリーな対応が必ずしも十分にとられているとは言えない。企業環境変化へ迅速に対応するためには，今後，目的に応じた最適なプロジェクト編成が随時柔軟に再構築できる組織作りが望まれる。例えば，組織間のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾐｽﾏｯﾁの最小化による品質向上や生産性向上，ある一定の制限時間内での業務実施を可能にするシステム開発方法論や体制の導入といったﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾛｾｽﾘｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ(BPR)で議論されている様々な改革を可能にするためにも，この様な再構築性に富んだフレキシブルな組織が重要である。

3．組織モデル

これまで，筆者らはＣＩＭのモデルに協調活動型意志決定プロセスを適用した企業モデルを提案した[1]。本稿ではこの考えを基に，企業活動を図１に示す様に，ﾜｰｸﾌﾛｰとその入出力である情報との組みを組織の機能単位とし，これら複数の相互連携作用と捉える。この時，再構築性（再構成性）に富んだ組織とは，必要に応じて同一階層上あるいは上下階層間に渡って，各ﾜｰｸﾌﾛｰと情報の統廃合／再編成が容易に行える組織と言うことが出来る。その際，個々のﾜｰｸﾌﾛｰの変更や各種情報への関わり方はｹｰｽﾊﾞｲｹｰｽで異なってくるので，これらに柔軟に対応できなければならない。そのためには，各ﾜｰｸﾌﾛｰの再定義と再適用への移行がスムーズに行え，かつ変化する情報へのアクセスが適切に行える必要がある。

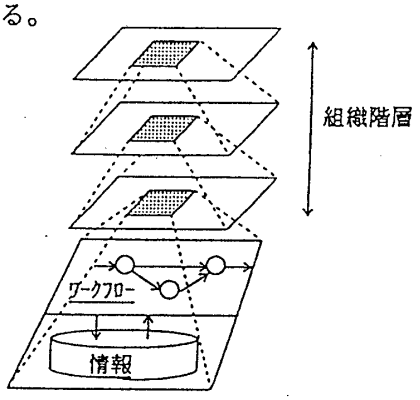

図１　組織モデル

4．企業情報通信プラットフォーム

筆者らは，前述の企業モデルに基づく企業情報通信ｼｽﾃﾑｱｰｷﾃｸﾁｬを提案したが[1]，本アーキテクチャの情報通信プラットフォーム層に以下の機能を装備することにより，上記再構築性に富んだ組織を実現することができる（図2)。

・プログラマブルワークフロー制御機能
・プログラマブル情報ビュワー

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾏﾌﾞﾙ ﾜｰｸﾌﾛｰ制御機能とは，個人（グループ）のﾜｰｸﾌﾛｰを組織の変更に応じて随時可変制御しようとするものであり，予め用意された各業務のプロセス基本枠（ﾜｰｸﾌﾛｰ ｸﾗｽ）を基に，プロジェクト管理者が個人（グループ）用にイ

A Study on Enterprise Organization and Information
Yoshinobu Fujii, Hirosi Fujimoto, Yutaka Shimoji
Fujitsu LTD.
Fujitsu Kansai Communication System LTD.

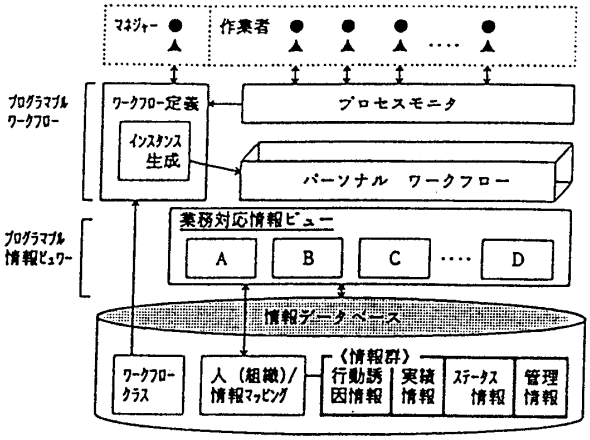

図2′ 企業内情報通信プラットフォーム

ンスタンス生成して作られるパーソナル ワークフローと，プロセスモニタにより業務の状況を逐一監視しその結果を個々のパーソナル ワークフローへフィードバックする機構からなり，様々な組織形態の変化に柔軟に対応可能なワークフロー制御を提供する。また各組織で取り扱われる情報は，組織内に散在することによる内容不整合を避けるため，論理的に一元管理される。更に，プログラマブル情報ビュワーは業務（組織）の目的に応じて，それを遂行するのに最適な情報空間を提供しようとするものであり，業務（組織）に変更があった場合でも，その役割に応じて定義された情報マッピングテーブル により，情報ＤＢ内の情報群から適宜必要情報を選択／変換し提供する。

5．情報ビュー

企業活動における各組織の役割は様々であり各々に求められる最適情報空間も異なる。従って，情報のビューイングも，情報の持つ意味や作業プロセスとの関連性と言った様々な側面から捉える必要がある。

情報の持つ意味から捉えると，例えば，情報群を，活動のトリガーとなる行動誘因情報，成果物である実績情報（生産物），活動の現況を示すステータス情報，およびこれらを管理する管理情報の４種類に分類し，各情報を役割目的に応じてビューイングすることも考えられる。

また，作業プロセスとの関連性から見ると，各組織におけるワークフローは全て抽象的な概念プロセスとして図３の様に統一的に捉える事ができるので，情報ビューもこれら概念プロセス毎にどうあるべきかと言う観点で捉えることができる。この場合の情報ビューの観点を表１に示す。

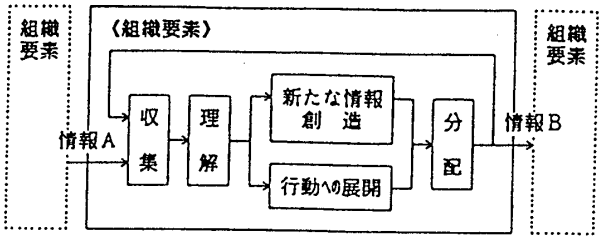

図３ 概念プロセス

表１ 情報ビューの観点

概念プロセス	情報ビューの観点
情報流通	所望の情報を所定の人（所）へ，タイムリーに伝達するための情報フィルタリング ・同報性，即時性，参照範囲，検索方法，など
情報理解	各業務での的確かつ迅速な理解のための情報変換／事例付加 ・分析／意味解釈／価値評価（判断）
情報創造	発想，アレンジをスムーズにする創造支援情報の提示 ・目的／作成情報リスト ・過去の事例，など
行動展開	効率的かつ確実な実施のための作業ノウハウの提示 ・ガイダンス，指示／承認，など

6．あとがき

本稿では，再構築性に富んだ企業組織を実現するために，情報とワークフローの側面から検討し，企業内情報通信プラットフォームに求められる機能について，その考え方を述べた。

参考文献

[1] 江谷，神田，廣瀬，下地，藤本「企業モデルに基づく企業情報通信システムの一考察」信学技報 SSE-14，1993年 5月